



CEReS

Newsletter No. 171

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング研究センター ニュースレター 2020年2月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：入江仁士)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

■■ 第22回環境リモートセンシングシンポジウム開催 ■■

CEReS では、共同利用・共同研究拠点として、「先端的リモートセンシング」、「地球表層情報統合」、「衛星利用高度化」の3プログラムを軸とした環境リモートセンシングに関連した研究を進めています。特に、本センターの有する施設・設備や受信・収集した衛星データを有効に活用し、それを通じてリモートセンシングによる環境研究の発展を図るため、大学、その他の研究機関に所属する研究者と当センターの研究者が協力して公募型の共同利用研究を実施しています。

環境リモートセンシングシンポジウムは1年間の共同研究の成果を発表する場、及び情報交換の場として毎年行っています。本年度は、令和2年2月20日に千葉大学けやき会館において、表題のシンポジウムが開催されました。上述の3つのプログラム研究に関連した17件の口頭発表と44件のポスター発表が行われ、88名の参加者が熱心に議論を交わしました。「防災」「観測技術・システム・新規利用」「ひまわり8号の応用」「地球環境モニタリング・モデリング」のセッションを開催しました。当日の発表題目等の詳細なプログラムは、CEReS ウェブサイト共同利用のページに掲載*しておりますので、ご参照ください。なお後日、これらの成果として「第22回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム資料集」を発行する予定です。

また令和2年度の共同利用研究公募が開始されました。公募要項*は、ホームページからダウンロード可能です。皆様の積極的なご応募を待ちしております

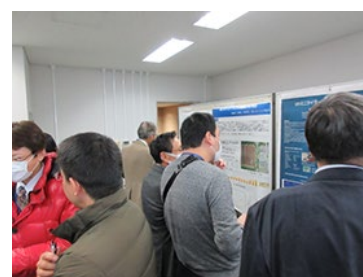
(*プログラム：<http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/symposiums/symp2019/RSprogram22-2019.pdf>)

(*公募要項：http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/Koubo/kyodoboshu-R2_Final.docx)

(共同利用研究推進委員会委員長 市井和仁)



開会のあいさつをする久世センター長



ポスターセッションの様子



第22回 環境リモートセンシングシンポジウム 参加者 集合写真

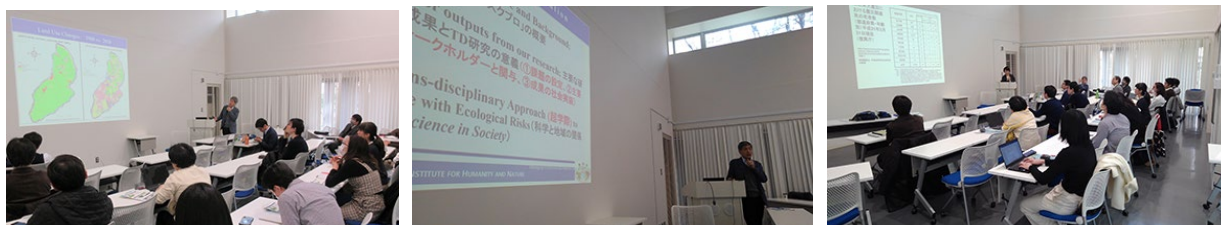
■■■■■■■■■■ CEReS 共同利用研究会開催 ■■■■■■■■■■

課題解決型研究を推進するための超学際のあるり方に関する研究会 ～診断から治療～

CEReS と総合地球環境学研究所の共催による研究会「課題解決型研究を推進するための超学際のあるり方に関する研究会～診断から治療～」が2020年2月21日に千葉大学松陰会館で開催されました。研究会の主な目的は、①課題解決型研究における課題とは何か、研究者と課題との関係はどうあるべきか、また②超学際(transdisciplinarity)とは何か、その実現のためにどのような態度が必要か、の2点にありました。新型コロナウイルスの影響で参加者は約20名となりましたが、ウィルスへの対応は近代文明社会における人の態度に関わる重要な観点でもありました。様々な超学際に対する取り組みの事例をご紹介頂き、大いに知的刺激を受けることができましたが、超学際についてはさらに議論を深める必要があります。科学と社会の関係性において社会が求めているもの、定常あるいは縮退社会における研究者の作法、等の考え方が提示されましたが、それ以前に課題の解決を目指した具体的な実践の中で研究者が悩みながら身につけていく態度であることも印象づけられました。この研究会は環境リモートセンシング研究センターのプログラム研究会としての位置づけもありますが、リモートセンシングは技術的課題であるとともに、見えたことの意味をどう理解するのか、という点に診療から治療へ進む道筋があるように思います。それは協働 (SDGs の Partnership) によって達成できるものでもあります。



(近藤昭彦)



当日のプログラムおよび一部講演資料を近藤研究室のサイトから閲覧できます。ご興味のある方はこちらからどうぞ。➡ **近藤研究室へようこそ (<http://www.llsci.net/klab/>)**

第2回マイクロ波リモートセンシング研究会・ 千葉大学サブ領域 F 研究会

2020年2月21日に、千葉大学西千葉キャンパスアカデミックリンクセンターにて、第2回マイクロ波リモートセンシング研究会 (SeMIREs 2020) と千葉大学サブ領域 F 研究会を開催しました。出席登録者数は33名、両研究会では東京大学廣瀬先生と新潟大学山口先生にご講演いただき、6件の口頭発表、また14件のポスター発表がありました。質疑応答では、マイクロ波リモートセンシングの分野における新たなアイデア、書籍の出版など、様々な課題のご提案、盛り上げていただいた方々に大変感謝いたします。今回の研究会で、下記の2名のポスターに優秀賞を授与しました。次回の第3回マイクロ波リモートセンシング研究会は電子情報通信学会と共催して、2020年11月25日に千葉大学にて開催する予定です。

1. 宮城和史、吉村博幸、メガネ型ウェアラブルデバイスを用いた個人認証の検討
2. Daiki Ito, Kenji Yoshida, Tadashi Yamaguchi、FDTD Verification of Relationship Between Biological Tissue Structure and Shear Wave Propagation Velocity Evaluation Accuracy

* SeMIREs 2020 Website : http://www.imrsl.jp/?page_id=5687



東京大学の廣瀬教授の招待講演



新潟大学の山口名誉教授の招待講演

リモートセンシングコース修士論文発表会

2月4日(火)に、共同棟102講義室にて、令和元年度の融合理工学府地球環境科学専攻リモートセンシングコースの修士論文発表会が開催されました。今年は7名の修士課程二年生の学生が研究発表に臨みました(久世研2名、ヨサファット研2名、本郷研1名、入江研1名、齋藤研1名)。

修士論文ということで、質疑応答の時間を多めに取り、一人あたり30分(17分発表、12分質疑)で発表をしてもらいました。どの学生もプレゼン資料はしっかり準備をして発表に臨んでおり、すでに学会発表などを経験していることもあってかプレゼンの作法などもきちんと身につけている印象を受けました。残念なことは、(毎回そうなのですが)自分の発表・自分の研究室の学生の発表だけを聴きに来る学生が多いことです。修士論文発表会では、他分野の人にも理解してもらうことを意識して研究の背景も含めてイントロダクションが丁寧に述べられており、全体に質の高い研究発表が行われていますので、経験の浅い学生にとっては大変勉強になる絶好の機会です。是非とも在校生にも積極的に参加をしてもらいたいと思います。



(齋藤尚子)

氏名	修士論文題目	研究室
門脇 隆	ひまわり8号静止気象衛星の日本域における雲データの解析	久世
宮本開人	可視および近赤外カメラを用いた深層学習による雲及び水蒸気画像の解析	久世
北神貴久	インドネシアにおける合成開口レーダを用いた洪水時の水稲被害把握手	本郷
北村克樹	ひまわり8号によるGOSAT/TANSO-FTS観測視野内の雲判定手法の開発と検証	齋藤
千種誼史	高誘電率誘電体を用いたXバンドパッチアンテナの実用性	ヨサファット
松田 陸	通信基地局及び合成開口レーダ搭載レドーム用の新素材の検討	ヨサファット
米川大地	2013-2018年に千葉においてMAX-DOAS法で観測された対流圏オゾンと前駆物質濃度のトレンド	入江